

## キタキチョウとホウネンタワラバチ

以前にも書いたことがあるが我が家の裏にはネムノキが1本あり、毎年根元から切るので一夏で育つ樹高が2m足らずである。そして毎年何頭かのキタキチョウが育っていく。家の中から観察できるので気持ちが和らぐことこのうえない。多いときには枝豆のようにサナギが吊り下がるのも愉快だ。



ところで、このネムノキに2~3年に一度数個の白黒模様の米粒を少し大きくしたくらいのマユが吊り下がって風に揺れている(強風が吹くと糸の元から枝に絡んでしまうが)。ホウネンタワラ(チビアメ)バチのマユである。ものの本で読むと“稲の害虫であるフタオビコヤガの青虫に寄生するので豊年俵バチ”なのだそうである。

このネムノキで成長するホウネンタワラバチは我が愛するキタキチョウの幼虫に寄生して干からびた青虫のそばでユラリゆらりと風に揺れている憎き奴。寄生蜂・寄生蠅というと殆どが(と思う)チョウのさなぎの中からチョウならぬインベーダーが直接羽化して抜け出してくるというものだが、このホウネンタワラバチは青虫の体液を吸い尽くした後マユを作るらしい。

昨秋もこの奴が数個吊り下がり何食わぬ顔で揺れている。今年こそ正体を見てやる、写真を撮ってやると思っていたが何時までもその気配がない。風で動けなくなったマユを調べるとしっかりと



羽化した穴が開いていた。また、ことしも失敗だ。今度見つけたら、すぐにプラケースに入れて観察するでしょう。

ほかにもキタキチョウには(私が)名前を知らない天敵がいる。

ハウネタワラバチと同じ時期にやってくるものだが、米粒に黄色いカビが生えたような毛糸玉のような形をしたマユを作る。写真のとおり大勢でやってくる。やはりキタキチョウの青虫を狙っているようで写真のとおりマユの近くに干からびた青虫の残骸が見られる。

